

“ドラマ”ワークを体験した先生方、生徒たちの感想です。

演劇制作に取り組む様子や、やってみて気づいたこと、実感したことなど、実際にお聞きした声をご紹介します。

先生の声

生徒の声

先生

さまざまな役割を分担して活動し、ひとつの作品をつくり上げる中で、構成力、自己表現力、課題解決力が高まっていきました。本番を迎えたときのクラスの団結力の強さはとても印象に残っています。

生徒

「どんな作品にしてみたい？」と自分たちでーから考える作品づくりは、形ができていくにつれてワクワクが止まりませんでした。お客さんに「よかったよ！」と言ってもらえたことが何よりうれしくて、表現することの楽しさを知りました。

先生

最初は少し恥ずかしがったり、堂々とできない生徒もいましたが、本番前のリハーサルの際には演出家の話を食い入るように聞くなど、非常に積極的な生徒が増えました。表現することが楽しく、どんどんはまっていったのだと思います。

生徒

作品のアイデアがクラスごとに違うのはもちろん、演出や照明・音響、キャストもクラスそれぞれに個性があって、全く違う作品ができていくのがとてもおもしろかったです。

生徒

はじめて本番用のホールでリハーサルをしたとき、想定外のことが起きてすごくバタバタしてしまいました。でも、「残りの時間でできることをやり切ろう！」とクラス全員に火がついて、本番は成功させることができました。すごく感動しました！

先生

これまでは「プレゼン」という表現を学ばせていたけれど、その土台になる“オープンマインドになること”や、“話すだけではない身体表現のトレーニング”に、ドラマという方法は最適だなと思いました。

生徒

本番直前、プロデューサーが「あとはキャストのみんなの想いのこもった演技を届けるだけ。楽しんでね！」と背中を押してくれたのが力になりました。何かをみんなでつくり上げるってこういうことなのかと思いました。

TWICE PLAN

お問い合わせ

株式会社トゥワイス・リサーチ・インスティテュート
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町1-11-804
Tel 03-6861-3553／Fax 03-6861-3554
Mail info@twiceresearch.jp
URL <https://twiceresearch.jp>



TWICE PLAN DRAMA WORK

“ドラマ”ワーク

「クラスでひとつの舞台をつくろう」
——ドラマづくりの全てを知る“オリジナル演劇制作体験”

クラス全員で協力して、ひとつのドラマをつくりあげるワークです。

はじめに全員で世の中にある“ドラマ”についてリサーチ。その後チームを組んで自分たちのストーリーを話し合い、オリジナルの演劇を上演します。

【身につく力】

チームワーク力、コミュニケーション力、
課題発見・解決力、構成力、文章作成力、
自己表現力、情報収集・活用力、
セルフマネジメント力

“ドラマ”ワーク

「演劇」という課題で 社会につながる力を磨く

演劇制作における多様な課題に取り組みながら、思考力・判断力、表現力を育みます。プロと同じように、プロデューサー、脚本、演出、キャスト、照明、音響、美術、広報など舞台を支えるスタッフといった舞台づくりの全ての役割を分担。ひとつのドラマをつくりあげていく仲間たちとの関わりのなかから、社会で役立つたくさんの力を磨きます。



チームづくり、企画づくり
まずはみんなで
ドラマのことを知る



3～4人のチームを結成し、リーダーを決めて、チーム名や意気込みを考えます。そして、アイスブレイクで「自分の好きなドラマ」の魅力やストーリーなどについて話し合ったあと、自分たちでドラマのあらすじをつくります。

2



作品決定、部門と役割を決める

クラスでひとつの“ストーリー”を選ぶ

各チームがつくったあらすじを聞いて、全員の投票でクラスで上演するドラマの企画を決定。プロデューサー、脚本、演出、スタッフ、キャストを決めて部門ごとに準備をはじめます。

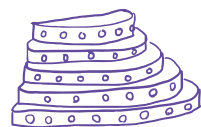


3

作品づくり、キャスティング

チームの力を結集して、作品を形にする

脚本部が完成させた台本をもとに、各部門が連携して具体的なイメージを描きながら準備を進めます。プロデューサーは脚本部、演出部と一緒に配役を決め、宣伝や集客、スケジュール管理など全体を統括して企画を実行していきます。



4

稽古、本番に向けて準備

作品を創造的に 仕上げていく



台本の読み合わせからはじめて、動きをつけての立ち稽古、本番前の通し稽古と、段階ごとに稽古をします。キャスト、演出、音響や照明など各部門、スタッフ全員で確認しながら改善を重ねて、仕上げていきます。

5

本番

自分たちのドラマを、 観客に届ける



舞台でのリハーサルをして最後の確認をしたら、いよいよ本番の幕を開けます。全員で声をかけ合い、クラス一丸となって、これまでの準備や稽古のすべてを出し切り、思う存分楽しめます。



6



振り返り、まとめ

自分たちの成長を振り返る

ドラマづくりの取り組みを振り返って、チームで印象に残っていることや感想などを話合います。最後はひとりひとりレポートを書いて終了です。



ワークの流れ

12のステップにそって進行します。クラスで、プロデューサー、脚本、演出、スタッフ、キャストなど、舞台づくりに必要な役割を分担して、オリジナルの演劇を制作。最後に活動を振り返ります。取り組み時間数は学校の状況に合わせて柔軟に設定することが可能です。（※1ステップの目安は最少45分です）

“ドラマ”ワーク

- 1 最初の準備
- 2 企画づくり
- 3 作品決定
- 4 役割決定
- 5 作品をつくる①
- 6 作品をつくる②
- 7 作品を動かす①
- 8 作品を動かす②
- 9 通し稽古
- 10 リハーサル
- 11 “本番”！
- 12 振り返り

プロの技術から学ぶ機会

当事者としての目的を持って取り組むとき、プロの技術・知識からは、とても多くの学びを得ることができます。直接話を聞くだけでなく、文献やネットの情報からも有効なヒントが見つかることを体験。社会で本当に役立つ実践的な技術を実感します。

